



今年の団参は四国でしたが、途中で松山の伊予カスリ会館に寄りました。手織り機のコーナーでは、ベテランらしい年配の女の方が、流れるようなリズムで機織りをしていました。見事なものでした。ヨコイトを通し、抑え、重ねていく毎に、模様が次々と作られていきます。さすがだなーと思いつつ、暫し、見入っていました。「ヨコイトを通していて、模様がずれたりはいしませんか」素朴な質問に、「両端に目を配ってチェックすれば、ずれません。なれですよ」と、さりげない返事が返ってきました。ヨコイトより、タテイトに神経を使います。一本でも切れたら最後、もう反物は織れません。タテイトには、特に気を使います。」とのこと。ヨコイトに神経を使って、織物は織られていくものだとの先入観が、根っこから否定され、ほんものを知らないのに知ったつもりでいることの怖さを、肌で感じさせられました。タテイトの大切さをヒントにいろいろ考えてみました。私達の毎日の生活は、タテイトとヨコイトとで織りなす人生模様ではないかと。タテイトとヨコイトとの接点は、毎日の私の営みであり、その連続は私の人生とも考えられます。私達は自分の模様を、立派なもの、きれいなもの、見栄えのするものの為に懸命で、ヨコイトにのみ神経を使って織っています。ヨコイトさえ大切にすれば、織れると思ったり、タテイトがなくても織れると錯覚しがちです。「織物はタテイトが大切です。」といった何気ない言葉に千金の重みを感じます。私にとって「タテイト」は何か。真剣に問うてみたいものです。タテイトは依りどころ、基です。真実なるものをタテイトとして、生きる人生。それが私の人生模様となった時、見かけはともかく、しっかりした織物ができる。そんな事を感じたことでした。